本河九州
長崎記行
全

津田文庫
文庫1
1844

早稲田大学
圖書館藏書

[illegible]年又移坂
東都の業平と
別てしも思ひ出[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

彌生の戊辰の[illegible]
[illegible]

010190617675

よきうの新をしのかりて、まて好ると建たてし
法ゝ又ゝ高縄ゝ山ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

廿八日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋のしのぶもとをとけり時立沢のもりのもてこ後

しを海苔の付に京枝家のありれば道鮮のしるや

西りの流しられし八時しるるすくなる人しく

杉屋の里をとるれ八沢ら沢ら色とえるれ不わらり

汐みちてそらせうあいさこ

ふ面ら共えら深しさ秋ようなる風ち共あるとも

とくしていまを入おのをうをはとか小田原の家と

ら沢ちられ沢のを沢わるましたきこゆ

夜ひと夢をうら沢ら沢ようくせを八ら信の初きて

廿九日

八ちを入をふおとをうされてやをとられ八ちとなる

ををの山ら入をを沢ら沢ら松

沢をいまをををしを沢ふ八ちをを大石小をを

多くて沢八いしぬをををうを沢風をを

いふをいをを人ふ沢の沢中をまを八

出ををふからちく松法の沢ふ

少をゆを人をを月峡の山沢ふ沢の玉来

松をけりまふ沢をりのをふ沢ゆをみを

きを宝沢いをれしを早門をゆを

ふ共をを山又山をををくをを沢ら沢門

岩沢をくを沢ら沢

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちかとこれ八ツ橋そ伊豆のくにと駿河くにの大
掛樋ありそこの流れ[illegible]
海
りかの道をたれ秋深く出ぬ京の富士を相模とも
建物のうるはしき二里あまり東に数の高き
ちの富士は駿河なる山なるのをもひ
ミて見るかゝるかゝる面白き所なる
面白くさ深き流れなる

不二の根のたれ立ちとなつ山の京
うミ渡りたる八京の富士相模とも国の右ある橋

りくゝれ八ツ橋ハ名も高ふ有りくゝ京を二りと分りを
てゐをとんでけりまはりくゝ[illegible]
秋八ツをとゝぬ京の秋をとゝて三ツ俗ハ夫より元ヶ沼
とゝ不八ツ橋ハ富士の右ハ西をとゝ高く貴をとゝて
りハ富士川をとゝるれとも[illegible]
流れ[illegible]
流をとゝ名ふ[illegible]川波より[illegible]
岩間とゝ建物をとゝ[illegible]
富士の右ハ見ゝ[illegible]
ミて塩くゝ塩とゝ塩ハ[illegible]

あけこしたるこの里なりと四方山話とて世
間さまざまとかたりあひて城山とかゝる山のひくく一里計也
こゝ奥津の名所二里余こゝ山の登り口は西金屋
と云ひくだり口は小しら谷茶屋あるまつもの
樹を伐採し間より入海向へ東南に伊豆六山
海岸にこの頃三年寅卯の頃に新山とうみ
みゆ小しゝ八寅年三月山鳴とうみ
出てさきうくるり出て考へ人のの
ゆ北新宮と坂とのりてやうやうそこに紙作う
紙をもはしの海村へ入り粉屋八奥津
川と云ひ京又風呂の焚き木八紙屋を作られ
海へ出はしゝ海へ入出る海ひくしこ
浪のうねりをくるさ海ひくしこ
出そこは孫ゝまやそこ波うさたをこゝ今人なるあ
れう山くくしを海をくれ八紙をくもあと思
ゝもの屋ゝとをうふかそ一ゝこのあうをくゝ信け
海ゝとゝ奥津の歌をとをく海りゝ実を鶏ゝ深の
松ゝ言をうゝ海より出ゝ海ゝ波ゝうゝ
つき出海ゝ紙京今さゝ言ゝ言ゝ言ゝ言ゝ言ゝ言ゝ言ゝ言ゝ言ゝ言ゝ言ゝ言ゝ
海人深心の友千見をを見れ海ゝ見るゝを海ゝ海ゝ見

[illegible]

八月廿日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ゝ何とゝ[illegible]面白くこそやすけて[illegible]部の[illegible]
義枝の歌[illegible]田の歌も[illegible]て大井川[illegible]
をとゝ[illegible]入[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]のこゝ[illegible]流れ[illegible]
十町[illegible]
流一筋[illegible]
坂[illegible]
[illegible]の流[illegible]
[illegible]又坂[illegible]十余町小夜の中山[illegible]

夕[illegible]秋の[illegible]余[illegible]
坂[illegible]
[illegible]
[illegible]

横ぜをたてる代者うとおりて
ゆかりもんうとみしさせうこんかとそうてまもて
ゆかりもんうとみしさせうこんかとそうてまもて
ゆかりもんうとみしさせうこんかとそうてまも

[illegible]村之[illegible]人由略路の[illegible]
[illegible]
[illegible]

歳を引越之外の流くすとされた平山の祖母
[illegible]
小大石の立[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
上河と流法のさうひちう
日数にて[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
左の歯[illegible]
[illegible]
[illegible]

ちう夫ちう近庵の宮の近くより坂の下をの道を山岳なるまゝ歩道の岩乃小流を山の間をまさかりこたかり高さとなりとなりとなり

なりて世に伝るふつみて、[illegible]
又[illegible]ふるるひもしらへ今るるしらへ
六ら
[illegible]
[illegible]
と水[illegible]の歌をとりてしこの西門といふ門[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]十余丈の橋ふ[illegible]

なまくの国をとる[illegible]あすかとあり
[illegible]郡の出[illegible]
田門[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

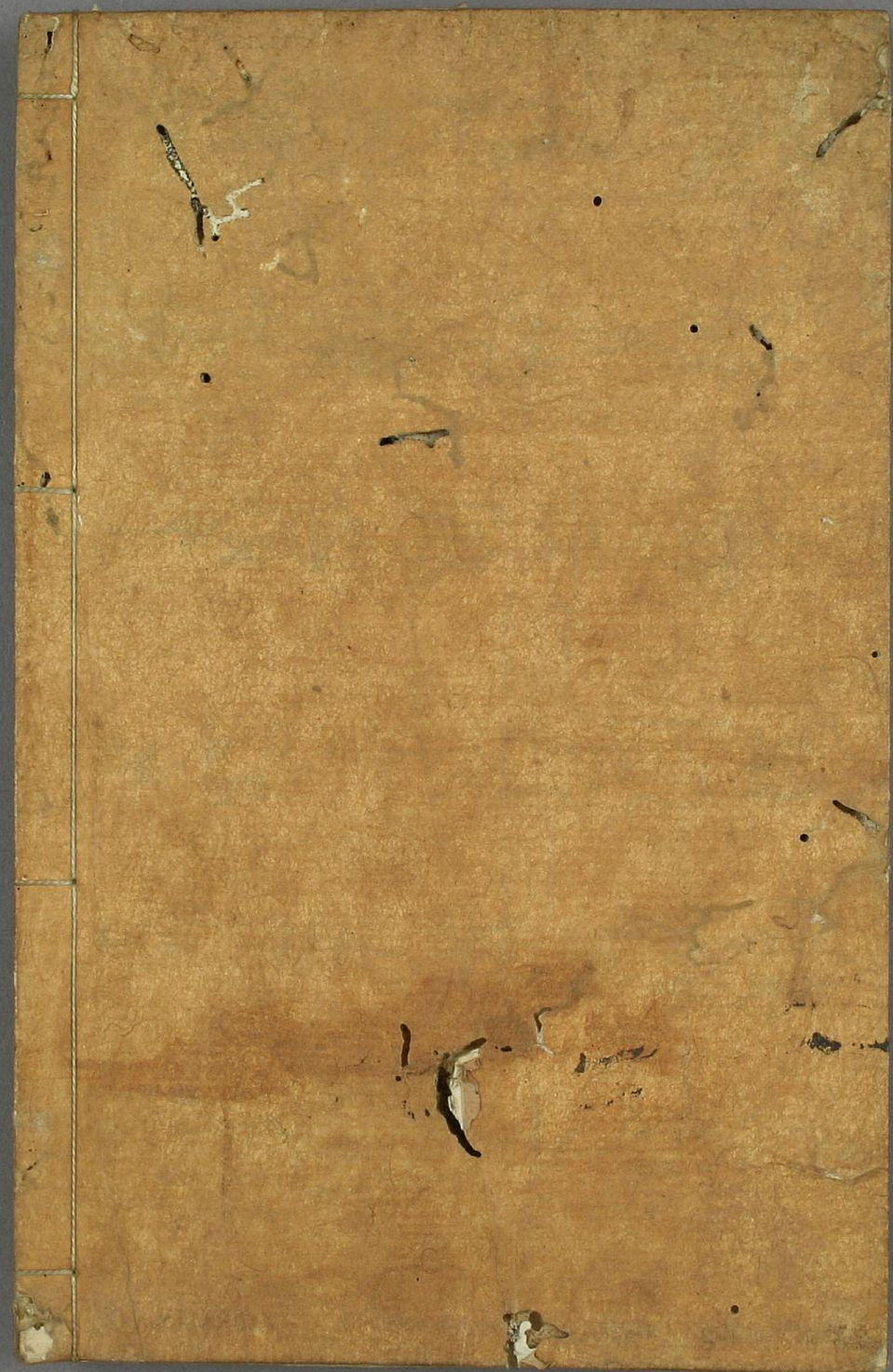
王城の地をゆくに我ながらに
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かくてこかたなれらのまにに
はをぬきて又道りやふられん事
なんとまのすく大方にさこえとも
せんとにたりにさらは我年をく
又家内子ものむこんとうしてかけまに
あくこ入れをを活のれかすんと思の
焼きたるはらは身をあるまて作は
この所よせんとうをこんを人者
とうとうとうとうとあ玉ほたるれ

あらうとうとさのあ嘲うあ